

日本山岳会 越後支部報

第 2 号

平成23年7月20日
発行 日本山岳会越後支部報
発行者 山崎 幸和
新潟県燕市吉田大保町4-8
TEL・FAX 0256-93-2655
広報委員長 加藤 明文



私の一枚

2011年5月1日～4日、二王子岳から飯豊連峰を目指した。この写真は入山3日目の午前11時ころ、初日の遅れを挽回しようと先を急いで通過した「藤十郎山」付近で撮ったものである。このルートは今回で4回目、はじめて歩いた時から35年もたっていた。

そして、いつのまにかいい年になっていて、2012年3月でいよいよ定年退職となる。温めておいた夢の実現のために少し無理をしてみようかと思ひ悩む日々が続いている。

亀田山岳会会長 佐藤 博

平成二十三年度

日本山岳会越後支部総会

支部副会長 橋本 正巳

支部報二号の発刊に当たり、この度の東日本大震災の被災者の皆様に衷心よりお見舞い申し上げ、お亡くなりになられたご家族の皆様には心よりお悔やみ申し上げる次第です。

上越地区での開催は五年振りになります。今回はスキー発祥の地金谷山で開催され、翌日は南葉山登山でした。その時の参加者は記憶に間違いがなければ確か十五人前後であったと思います。今回は新潟県の外れ、尚且つ地震の影響も残る秘境松之山の開催であることから、参加者数が如何程になるか内心危惧いたしておりました。しかしその心配も田邊事務局長の多々なるご心配のお蔭で約四十名程の沢山のご参加を頂きホッとした次第です。総会は型通りの事業報告並びに会計報告や次年度事業計画、各委員会事業とその予算審議がなされ、今総会の大きな審議事項である支部会費徴収についても参加会員皆様からご審議頂き、満場一致でご賛同をいただき無事終了いたしました。心より厚く御礼申し上げます。

懇親会は阿部信一新潟県山岳協会会長の挨拶に始まり今回の最長老の渡辺欣次さん

の乾杯、そして賑やかな話で夜も更けるのも忘れ和やかなうちに恙無く終了した次第です。

明けて翌日は入梅の影響か、はたまた台風二号の影響か生憎の雨空で残念ながら天山登山は中止といたしました。天山水山にはご存知の通り昭和四十一年の新潟県境全踏査縦走の記念標識があります。四十五年前の青春時代を県境踏査に捧げた正に青春の礎です。訪れることが叶わず誠に残念でした。しかし地元松之山出身の七沢恭四郎委員の計らいで松之山の名所、謡曲「松山鏡」の中尾の鏡ヶ池や屋久杉にも引けを取らない亀杉や大荒戸の庚申夫婦杉を訪れました。挙句の果てに七沢さんの築百年のご実家までへも押しかけ、大変有意義なひと時を過ごさせていただきました。大変ご迷惑をおかけいたしましたこと、この紙面をお借りしてお詫びと御礼を申し上げます。午前中で全ての行事を終わり、最高を期してみなさん笑顔の中解散いたしました。地元の一会員としてご参加頂いた皆様はじめ関係各位に感謝。

支部会則改正と役員改選などを承認
―二十三年度支部総会―

去る五月二十八日、十日町市松之山天水越の大蔵寺高原「ばーどがーでん」で二十三年度支部総会が三十九名の出席をもって開催され、上程された四議案が異議なく承認されました。

- 第一号・二十二年度事業会計監査報告
- 第二号・二十三年度事業計画予算
- 第三号・支部会則改正
- 第四号・役員改選

詳細については六月上旬全会員宛に送付済みの「総会報告書」の通りですが、要点のみ再録します。

●「支部年会費千円に決定」

特に今回は十四年振りに支部会則が改正され、支部会費制度が今年度から二十五年ぶりに復活、年千円と決まりました。

現在三十支部ある内、支部会費未徴収は北海道、岩手、宮城、越後、静岡、富山、福岡の七支部のみでいずれも検討段階であるという。

昨年度は資金不足から、永年・終身会員から「支部協力会費」として募金協力を仰ぎましたが、創刊したばかりの『支部報』が遂に続かなかつた状態でした。各位の温かいご理解お願い致します。因みに、全国二十三支部平均額は二、四三五円であります。

●「支部役員改選」

任期満了を迎え、二十三〜二十四年度の役員に次の二十名の方が就任致しました。

昨年度からスタートしました各六専門委員会（事業・広報・図書・自然保護・県山協・総務）の充実を図る為、今年度から全役員がその各部門を担当することになりました。会員各位のご協力お願い致します。

記

支部長	山崎 幸和(再)	燕 市
副支部長	橋本 正巳(再)	上越市
同	本間 宏之(再)	長岡市
事務局長	桐生 恒治(新)	見附市
委員(事業)	井出 秀雄(再)	新潟市
同(広報)	加藤 明文(再)	新潟市
同(事業)	小山 一夫(新)	新潟市
同(広報)	本間 一人(新)	新潟市
同(総務)	山田 智子(元)	新潟市
同(図書)	五十嵐 力(再)	胎内市
同(図書)	斉藤 宣雄(新)	新発田市
同(図書)	横山 征平(再)	関川村
同(自然)	櫻井 昭吉(再)	魚沼市
同(原山)	目崎 貞良(再)	小千谷市
同(原山)	永島 賢司(再)	上越市
同(自然)	七澤恭四郎(再)	上越市
同(事業)	佐竹 信幸(再)	会津若松市
同(事業)	森沢 堅次(再)	会津若松市
幹事	遠藤豪之進(新)	新潟市
同	森 庄一(新)	長岡市
同	以上(新任六名)	

この度の改選で退任された方は広報委員長・高橋正英、事務局長・田邊信行、委員・土田幸雄、委員・本田文雄の四名です。長い間、支部の為に尽力頂きましたことに深く感謝申し上げます。

専門委員会のメンバー

支部の各種事業を遂行するために専門委員会を設置しました。

- 一 総務委員会【総務会計を担当。総会・役員会及び支部晩餐会の企画設営。本部提出資料作成。本部や各支部間との情報交換など】
- 二 事業委員会【登山活動の企画実施を担当。親睦登山・高頭祭・海のウエストン祭後援・他支部交流会など】
- 三 自然保護委員会【自然保護パトロールや清掃登山、環境破壊などの調査及び自然観察会や講演会等の企画実施】
- 四 広報委員会【会報「越後支部報」の発行の企画編集。各種行事の広報連絡など】
- 五 図書委員会【図書地形図登山資料等の「藤島玄山岳文庫」や他山岳書の整理管理とその有効活用促進。支部機関誌や会報への情報提供】
- 六 県山協委員会【県内岳界発展に表裏一体関係にある県山岳協会との友好を堅持継続のため各種事業の相互交流協力など】

桐生恒治・山田智子・高辻謙輔
坂井美江

井出秀雄・小山一夫・佐竹信幸
森沢堅次・込山 孝・成海 修

櫻井昭吉・七澤恭四郎・吉田理一
松井潤次

加藤明文・本間一人

横山征平・五十嵐力・斉藤宣雄

目崎貞良・永島賢司・根津洋子
桐生恒治

以上六委員会(太字委員長)

第五十四回高頭祭

越後支部主催の恒例行事です。平日ですが多数の参加願います。

- 〇と き 七月二十五日(月)
- 一四時三〇分〜一六時
- 〇ところ 弥彦山大平園地高頭碑前
- 懇親会の飲物等は各自で持参
- 〇終了後 「新潟県登山祭(弥彦山松明登山祭)」が開催される弥彦山頂へ移動。この日程は左記の通り。引き続き最後まで参加の程願います。
- 一七時・御神廟山頂祭(玉串奉奠)
- 一八時二〇分・松明行進下山開始
- 一九時三〇分・山麓清水茶屋給油
- 途中参加者はここで合流
- 二〇時・弥彦神社で社頭行事(市中行進)
- 駅前階段(記念品贈)
- 二〇時三〇分・懇親会(弥彦体育館・会費五〇〇円)
- 臨時列車二一時五三分(新潟行有)

第二十七回全国支部懇談会

全国各支部の山を巡り岳友たちと語り合う支部懇談会。今年は東日本大震災の被災にもめげず宮城支部が主管、エール参加致しませんか。

〇十月十五〜十六日(日)

〇A栗駒山、B世界谷地原生花園

内容については会報『山』七九三号参照の上、参加希望者は支部一括申込みしますので、八月十日まで左記へハガキ又はFAX

事業委員長・井出秀雄
FAX 025-266-1319
支部事務局・桐生恒治
FAX 0258-62-0148

機関誌「越後山岳」の原稿募集

第一号発行以来、早四年経過しましたので、第一二号を発行すべく編集委員会を設置しました。ふるって応募下さるようお願いいたします。

○テーマ ① 越後と会津の山の今昔ー古い写真等を活用した山に関する文章

② 前記にかかわらず山岳紀行、地域人物動植物研究等（対象山域は越後佐渡会津を基本とす）

○ペ切 二十三年十月末必着

○要綱は六月送付済「総会報告書」に添付。参照又は左記に照会を。

編集委員

- 筑木 力 025122811276
- 高辻 謙輔 025126712244
- 遠藤 俊一 025126514181
- 佐藤レイ子 025127711290



旧松之山町核心部の

一部を案内して

七澤恭四郎

総会の翌日六月二十九日、本来ならば天山に登り、昭和四十一年の、日本山岳会越後支部が創立二十周年記念事業として県境踏査した時のプレートがある、ブナの木を見て、往時の偉業を偲び、乾杯をしたかったが、残念ながら雨降りとなり、急ぎよ松之山の案内となった。

まずは中尾集落の松山鏡と亀杉を案内した、松山鏡の伝説にある鏡ヶ池の謂われのある掲示を見る。池自体は小さく往時の面影は乏しいようであるが、目通り一〇mの杉には会員一同驚嘆する。

次に松口集落の美人林に行く。ここは昭和の初め原生林を薪炭等で伐採した後に、ブナの実生が生え、二次林として育ったところである。面積はさほど広くはないが、幹のすらっとした形と、残雪の中の、萌黄色に染まる若葉の美しさは、美人林に値する。春の新緑、夏の森林浴、秋の落葉、新雪のかぶった木立等が美の極意を醸し出している。時間がなかったので、集落にある家形墓塔(上杉時代会津に国替えの時に「慶長三年 二五九八」従わないで残った郷士の墓)の案内が出来なかった。

大荒戸集落の夫婦杉は、松代に抜ける街道沿いにあり、庚申塚・不動明王像・三猿の像が祀られていることと、天保八年二八三七 天領の時、松之山郷内の百姓騒動代表者が集合する目印となった杉でもある。

小谷集落の白山神社に行く。神社のある道はその昔高田街道と呼ばれ、上杉謙信が関東に出陣した時代永禄三年二五六〇(この年は直江兼統も生まれ、桶狭間の戦いもあった)頃からあったと言われている。また此の神社は天文三年二五三四(この年は織田信長が生まれている)に創建され、樹齢六〇〇年以上経た櫓がある。神社の裏側には江戸末期から明治末期まで出た、草生水を精製する大きな釜があり、一同に説明する。

不明瞭な案内でしたが、皆様に喜んでいただき良かったです。

事務局長就任にあたって

桐生 恒治

この度、田邊信行事務局長の後任を拝することになりました。長い間事務局長を担当された田邊さんのご苦勞に感謝とお礼を申し上げます。今後の支部事務局運営を支援しないように対応して行く所存ですが、初めての経験であり田邊さん始め支部会員皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

越後支部では無名の新参者ですが、生まれは旧栃尾市で現在見附市在住です。会員番号は七六七五で、入会当初は東京本部で活動しておりました。一九七三年学生部インドヒマラヤ登山隊、一九七六年日印ンダデビイ登山隊、一九八五年中国登山隊等の日本山岳会の海外遠征に参加致しました。

た。本部の指導委員会や高所登山委員会の委員として活動して来ました。特に指導委員長として山スキー講習会の企画立上げに力を注ぎ、二王子、守門、巻機、妙高等で開催した時には、越後支部の絶大なる協力を得ました。一九八五年に見附市にUターンした後、支部活動に疎遠となりましたが、二三年前に高頭祭に來山された宮下秀樹前会長、支部年次晩餐会に出席された神崎忠男現副会長にお会いし、「もつと山岳会の活動を手伝え！」と叱咤激励されておりました。昔お世話になった諸先輩からの一言は、非常に重く押し掛かっており、今回山崎支部長からのご指名を天命と思ひ、事務局長の重任をお引き受けした次第です。

越後支部は、日本山岳会設立発起人の一人で第二代会長であった高頭仁兵衛翁の地元です。支部設立も昭和二十一年と最も古く、会員数も二二〇名強と日本山岳会の一翼を担う支部と思ひます。しかし、最近指摘されている会員の高齢化に伴う活動の低迷は、本部現象のみでなく越後支部にも波及して来ています。支部の良き伝統を継承し、他支部との交流や自然保護を推進し、若手会員にアドベンチャースピリットを啓蒙発信できるようにしたいと考えます。支部会員の皆様に日本山岳会の意義を還元できるように努めたいと思ひますが会員皆様も日本山岳会のために何が出来るかと言うことも併せて考えて頂きたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

山靴

花のお印

小倉 敏子（関川村）

皇太子妃雅子様のお印は「ハマナス」とのこと、何だかおこがましい事のように思いましたが、山野草の中に自分のお印の花を探して歩いた思い出を書いてみました。それは今から数年前のこと、Mさんが退職記念に「マクロレンズ付きのカメラ」を求めました。私はその頃マクロの世界に魅せられて、レンズを覗き込んで花の密にどっぷりと浸かっていた頃でした。早速二人で早朝に海岸へ出かけて花々を撮り続けて、好きな野の花を一つ決めてお印ごっこを始めました。彼女は「マンテマ」、私は「ヌスピトハギ」と決めました。マンテマはナデシコ科の花で江戸末期にヨーロッパから渡来し、庭などに植えられたものが野生化して、日本全土の海岸などに群生した花です。花弁は白色で紅紫色の大きな斑点が良く目立ち、ピロロドのような温もりのある花は、彼女そのもので、何故か心引かれる不思議な花です。ヌスピトハギは、果実の形を忍び足で歩く盗人の足型に見立てたもので、花は蝶形花、葉はみつば、全体に小さくて可憐な花です。その後花の好きな山仲間に出会い、お印ごっこの山度へと足繁く通う事になりました。お印を高山と、山地と、樹の花と決めて、最初はFさんのお印は「サラサドウダン」で、以前山形県小国町倉手山に登った時にありました。この花は輪生した葉の下に鈴を束ねたように釣鐘形の花をぶら下げて咲くツツジ科の人氣

者です。紅色をした更紗模様が美しく、自然が創り出した造形の妙に關心させられました。彼女は下向きの花がちよっぴり陰気くさいと気にしていましたが、風に揺れて鳴子のような明朗さが彼女に置きかえてお似合いのものでした。

Kさんのお印の樹は「シロヤシオ」別名ゴヨウツツジ。この花は大平洋側に生育する植物なので諦めていた矢先に、JAC山行で福島県雄国山へ、雄子沢登山口からラビスパ（温泉施設）へ下山時に、施設の庭でシロヤシオの花を見つけました。「敬宮愛子内親王殿下御誕生植樹記念」と碑が建っていて、その脇に愛子様お印であるゴヨウツツジが三本植えられてありました。名前の如く村先に五枚葉が輪生状に付いていて、白い漏斗状の清らかな花をいっぱいつけて、その姿は気品高く華麗であり、クイン的な存在感を持った花でその姿を彼女に重ねて見とれていました。私のお印の樹は「ミヤマザクラ」で先日六月六日に光鬼山で満開に出会い愛でる気持で頬擦りしながら歩きました。この花は日本の野生ザクラの代表的な花で、花弁はさくら独特の裂片は無いけれど丸くて白い花びらと、多数の雄しべの軟らかさが清楚で魅力的です。この花とヒメサユリのかたわらで昼食をとりながらホッ！と至福のひと時を味わいました。これからも「花のお印ごっこ」の山旅を、のんびりと歩み続けて行きたいと念じています。

山をもっと

楽しむために

本間 一人

山に憧れ半世紀、第一次登山ブームそして今第三次登山ブームとか、百名山ブームがあり山ガールがミニスカートで山を登る時代が到来した。

過日私は自然保護研修会を山岳地でなく一般の登山者からも参加してもらい自然保護の啓蒙ならびに遭難防止の呼びかけをおこなった、その講師の話の中に前穂高東壁で発生したザイルの切断事故の内容も話された、重い麻ロープから軽くて滑らかなザイル、使った人はさぞかし使い心地が良かったに違いない、しかし岩の鋭角に脆くも簡単に切断してしまう、そして友を失いザイルを制作した会社を訴えることとなる、こともあるように主人公は訴えた会社の社長夫人（美那子）と親しくなり悩むことに、こんな展開で山岳小説が語られているのが井上靖の水壁であったような気がする。

他にも北鎌尾根に散った小説や、単独行そして新田次郎の強力伝など山に登り始めたころは夢中になって本を読んだ、そしてその山々に憧れ、今の新潟市役所裏手の藤波出版まで五万分の一地図を買いに行き何回ながめても飽きもせず尾根や沢筋に色分けして山の地形を頭に叩き込んだ、そして藤島玄さんの飯豊の地図に出会う。

そして何千冊とも云われる故藤島玄氏の図書が関川村図書館に整理され日の目を見る日をまわっている。

新潟の山を語るとき、又記事を書くとき

コースタイムは自分で歩けば書けるが山の人文、信仰となるとやはり玄さんの図書に頼らざるを得ない。

最近山を始めた人はどのようなきっかけで山に憧れ登るようになったのだろうか、テレビの影響は否めないが、単にガイドについていく登山は酒を飲んで慰安旅行に行くようなもので、頂上の記念写真こそあるがルートは定かでないとか、山を楽しむには色々な本を読み、地図を頭に叩き込み、その山を熟知して楽しんでもらいたいものである。

掲示板

支部報原稿募集

支部会員の皆さんから広く原稿を募集していますので、投稿をお願いします。

私の一枚（写真・スケッチ）

自慢の力作、思い出の一枚、秘蔵の一枚等々……一〇〇字程度のコメントを添えて投稿下さい。

山靴

会員の山行記録を自由にお書き下さい。

表題文字は山崎支部長

編集後記

夏、毎日のようにあった夕立。今は夕立でなく〇〇マイクロシーベルトや△ベクレルの放射物質が降る。今後の最大の山装備は計測器になるのかなあ。玄さんそこま

で教えてくれなかった。(明)